

「山の目」制定記念

# 富士山国有林見学会



平成26年10月16日(木)

冠雪の富士山望む秋晴れのなか、一般公募の抽選で選ばれた21名が参加する国有林見学会を実施しました。今回は木材生産事業地を見学し、森林インストラクターによる大沢崩れ周辺の自然観察を行いました。

木材の集積場で、静岡森林管理署から署長の挨拶、国有林の木材生産事業とシステム販売の説明をおこなったあと、今年システム販売契約をしている「株式会社特種東海フォレスト」の新聞技術顧問より説明があり、実際にチップperを動かしてもらいました。



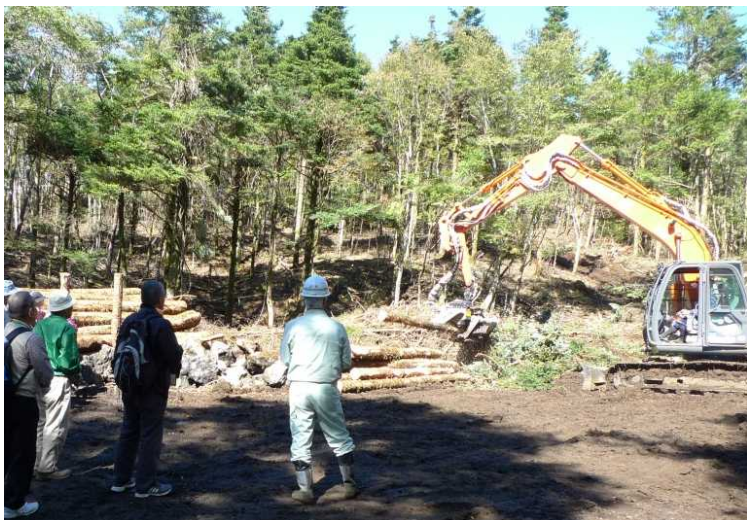
集積場に集まったウラジロモミの丸太は皮付きのまま移動式チップperで破碎、直接トラックの荷台に移され、製紙工場に運ばれていきます。このチップは主にクラフト紙の原料になるそうです。

緑色の機械が移動式チップper(ドイツ製)

次にウラジロモミを伐倒している箇所の見学に向かう途中で、ヒノキの植林地を見学。富士山国有林では標高の低い方にヒノキを植え、標高が高いところにはウラジロモミやカラマツなど寒さに強い木を植えてきています。最近シカの食害が増えており、柵や幹巻ネットなどの対策が必要となっています。







ウラジロモミの伐採箇所では、列状に間伐をおこなってプロセッサで枝払い玉切りし、フォワーダで林道まで運搬しています。今回はプロセッサでの枝払いと一定の長さで玉切りするところを実演してもらいました。

参加者からは、林業がこんなに機械化されているとは知らなかったと驚きの声が上がっていました。

昼食休憩をした場所では、当初計画していなかったことですが、国有林内

の有害鳥獣捕獲を行っている猟師と一緒に、今日捕獲したシカを見せてもらい、富士山のシカの話しを聞くことができました。

午後からは、大沢崩れに移動し森林インストラクターによる自然観察会を行いました。

大沢崩れは富士山の大規模な崩壊地です。見学した箇所は標高1300m付近の下流部分になりますが、森林インストラクターから地質の説明、フジアザミやハンノキなど崩壊地に生育する植物について説明があり、現在も崩れが続いている状況を間近に見ました。



近くの天然生林に移動し、富士山の植生や植物について説明を聞き、木漏れ日の中気持ちの良い散策ができました。この後、はじめの木材集積場に戻り解散となりました。



今回は車での移動時間が長くなりましたが、一般の方が普段入れない国有林の奥まで行って実際の木材生産の作業を見て頂いたことで、国有林野事業をより身近に感じてもらえる機会になったのではないかと思います。